2024年3月期 決算説明資料

株式会社ゼネラル・オイスター

（3224）

General Oyster

2024年5月15日

1. 2024年3月期　決算 トピックス

2024年3月期　決算ハイライト

General Oyster

第4四半期に、能登半島地震、ノロウイルスの蔓延の影響で減収減益

1

能登半島地震の影響で、富山入善の牡蠣の浄化センターで取水管のトラブルあり、牡蠣の供給が不安定になったことと、、２月から、全国でノロウイルスの蔓延があり当社の基準の生牡蠣の調達が困難になり、店舗事業、卸売事業とも営業縮小が余儀なくされ、4Qにおいて、対前年比△70百万の減益。

営業利益は、対前年比△87.1%の16百万円と減益。最終損失は△104万円

2

主に店舗事業では、将来に向けたスクラップ＆ビルド（5店舗の出退店）や業態変更（2店舗）を実施したこととによる販管費の増加や、４Qの能登半島地震やノロウイルスの影響などで、営業利益対前年比△110百万円の16百万円と減益。親会社株主に帰属する当期純利益は、加工工場の特別損失116百万円を計上し、対前年比242百万円の△104百万円の最終赤字。

新規ブランド店やFC店など、牡蠣の食文化の新たな情報発信を推進

3

複数の成長軸をもった持続的成長の実現と企業価値の向上を図るため、新業態の「8TH SEA OYSTER Market Kitchen」を阪急うめだ本店、「8TH SEA OYSTER Bar &Grill」をルクア大阪など、注目の施設に開業。また初のFC店舗を北海道札幌市に開業しオープン以来、好調に推移。

概要

General Oyster

売上高は3,790百万円（前年同期比0.7%増）と前年並み。
営業利益は第4四半期の落ち込みと、販管費の増加により前年比△52.8%の16百万円と減益。
親会社株主に帰属する当期純利益は、加工工場の特別損失もあり、前年比△242百万円の△104百万円。

	2020年3月期（参考・コロナ前）		2023年3月期		**2024年3月期**		**前年同期比（%）**
	実績（百万円）	構成比（%）	実績（百万円）	構成比（%）	実績（百万円）	構成比（%）	
売上高	3,579	100.0	**3,764**	100.0	**3,790** ①	100.0	+26 (+0.7%)
売上原価	1,220	34.1	**1,381**	36.7	**1,312**	34.6	△69 (△4.9%)
売上総利益	2,359	65.9	**2,383**	63.3	**2,477**	65.4	+94 (+3.9%)
販売管理費	2,505	69.9	**2,256**	59.9	**2,461** ②	64.9	+205 (+9.0%)
営業利益	△146	-4.1	**127**	3.4	**16** ③	0.4	△111 (△87.4%)
経常利益	△157		**128**		**29**	0.8	△99 (△77.3%)
特別利益	0		**12**		**4**		△8
特別損失	0		**25**		**124** ④		+99
親会社株主に帰属する当期純利益	△106		**138**		**△95**	△2.5	△233

① 卸売事業を中心に増収

② 店舗のスクラップアンドビルドなどにより、販管費が前年より増加

③ 第4Qの富山の浄化センターの地震、ノロウイルスの蔓延での影響で店舗、卸とも収益を落とし、営業利益は減益

④ 加工工場などの特別損失124百万円を計上

連結業績について

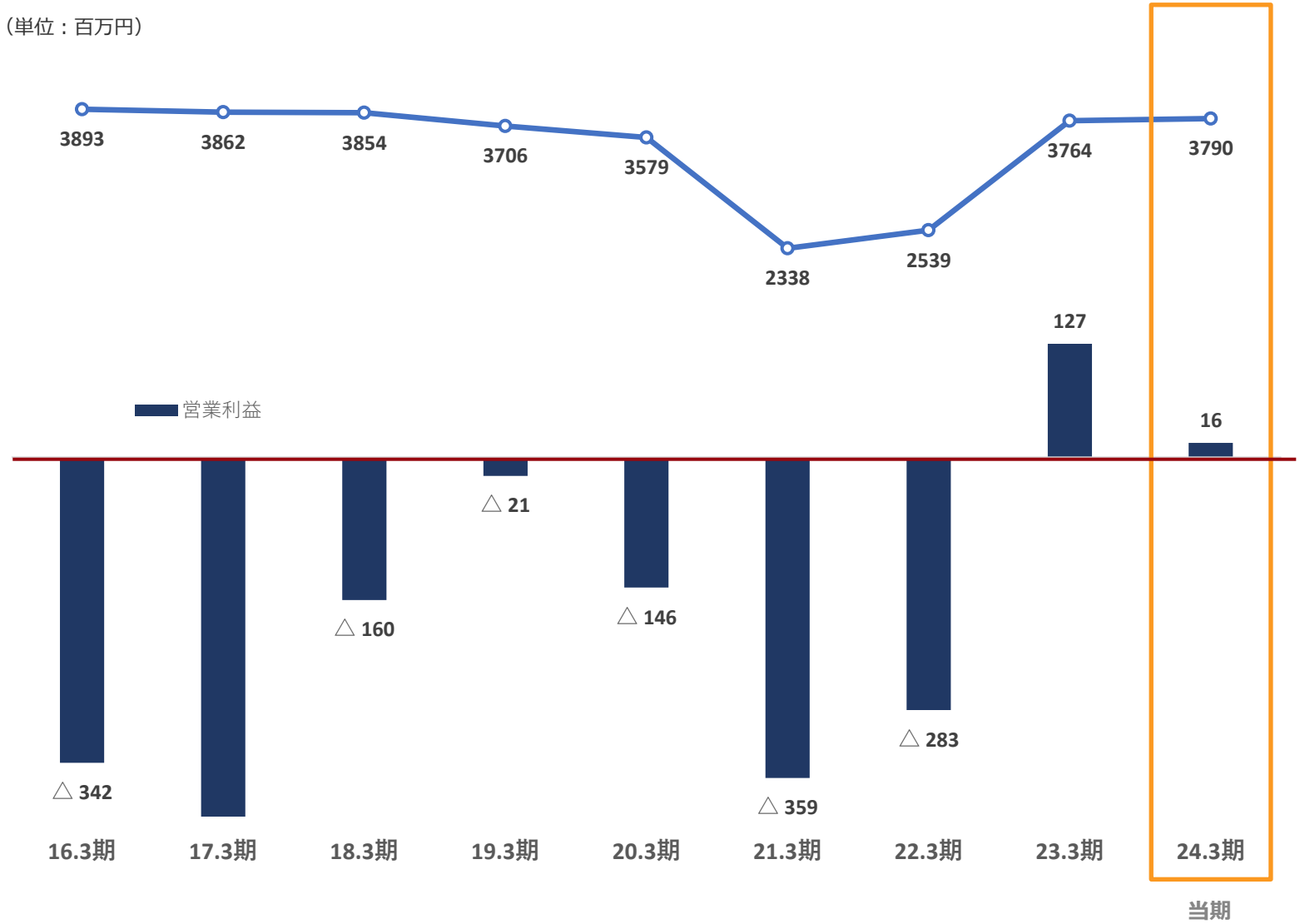
売上高は店舗数の増加や卸売りの取引先の拡大があり3Qまでは概ね計画通りに推移していたが、4Q（1月～3月）に能登半島地震の影響で富山県入善町の取水トラブルや、ノロウイルスの蔓延の影響で牡蠣の提供ができない時期もあり、結果前年並み。営業利益は店舗のスクラップビルドなどにより販管費の増加などにより、対前年△87.4%の16百万円と減益。

売上高

37.90 億円

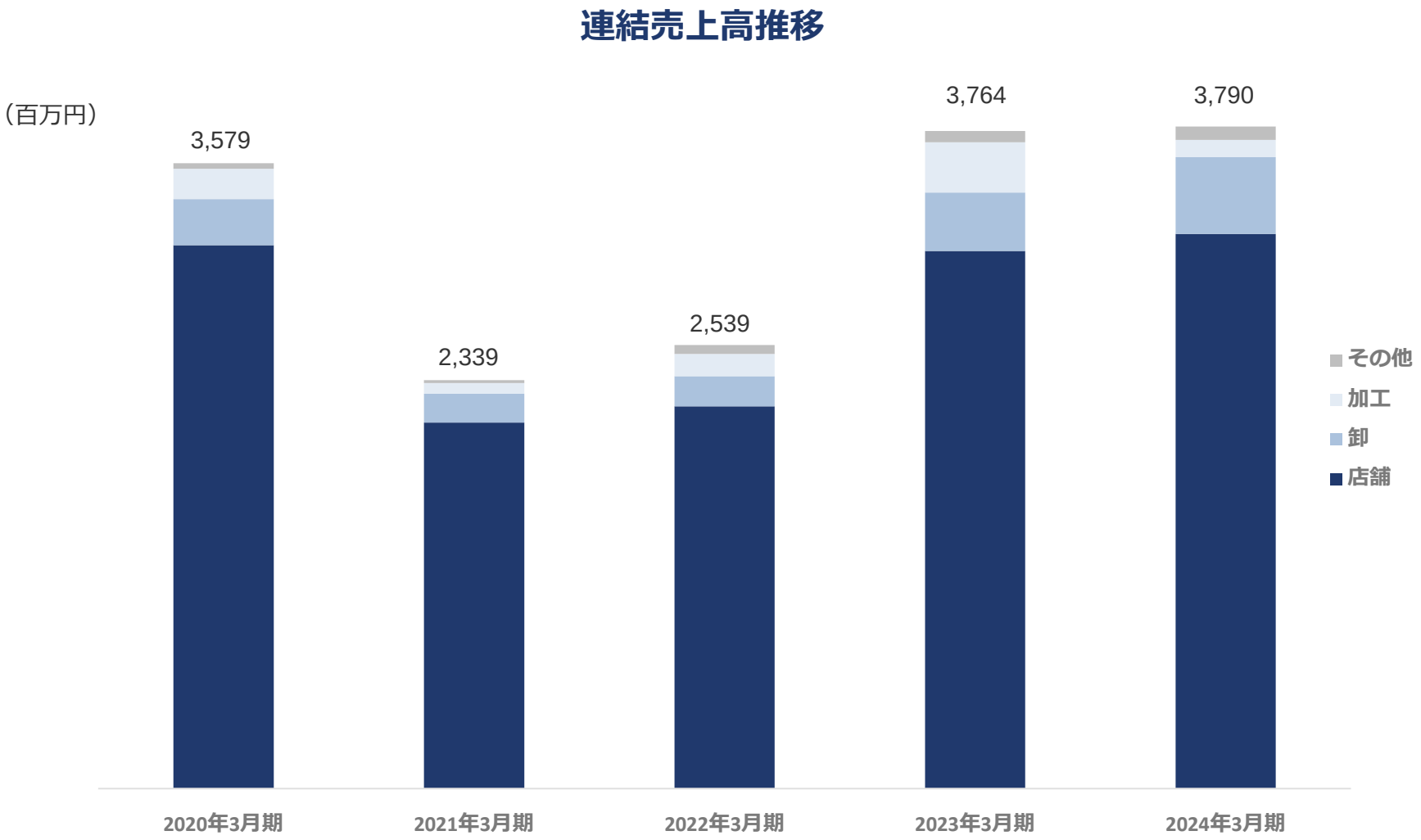
営業利益

16 百万円



連結売上高推移

グループ全体ではコロナ前を超える売上となったが、3Qまでは順調に推移していたものの、4Qの能登半島地震の、富山入善での取水トラブルや、ノロウイルスの蔓延の影響で、売上に急ブレーキがかかった。



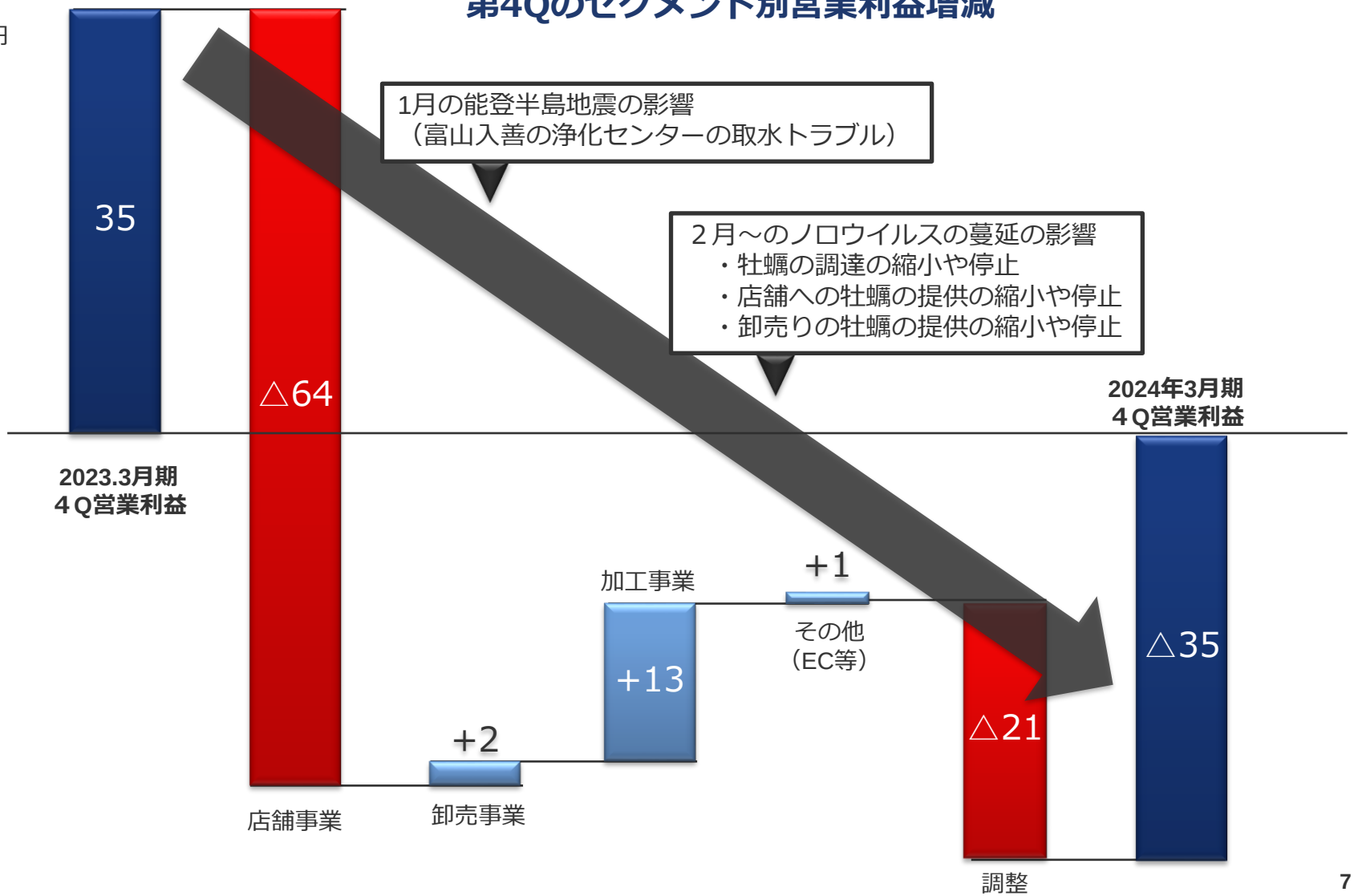
第４四半期（2024年1月～2024年3月）の各セグメント別の減益要因

General Oyster

本来繁忙期である４Qだが、1月の能登半島地震の影響で富山入善の浄化センターでの取水トラブルや、1月からのノロウイルスの蔓延の影響で、牡蠣の供給が停止、店舗事業だけで、対前年比△64百万円の減益。全体では4Qだけで、対前年比△70百万円の減益。

第4Qのセグメント別営業利益増減

単位：百万円



連結損益計算書

店舗の将来に向けたスクラップ＆ビルド（5店舗の出退店）や業態変更（2店舗）を実施したことになどで、販管費が全社で+9.1%増加したことと、加工事業の減益（対前年△20百万円）また、第4Qの能登半島地震とノロウイルスの影響で、営業利益は16百万円と減益

（百万円）	2023年3月期	2024年3月期	前年同期比	増減率
売上高	3,764	**3,790**	+26	+0.7%
売上原価	1,380	**1,312**	△67	
原価率	36.7%	**34.6%**	△2.1pt	
売上総利益	2,383	**2,477**	+93	+6.5%
売上総利益率	63.3%	**65.4%**	+2.1pt	
人件費	897	**946**	+49	
備品消耗品費	86	**97**	+11	
募集費	26	**44**	+18	
その他販管費	1,246	**1,372**	+126	
販管費合計	2,256	**2,461**	+205	+9.1%
販管費率	59.9%	**64.9%**	+5.0pt	
営業利益	127	**16**	△110	△87.1%
営業利益率	3.4%	**0.4%**	△1.5pt	

貸借対照表概要

2024年3月期末の総資産は22.35億円、前期末比△1.55億円。
自己資本は9.27億円、自己資本比率は41.5%を確保。引き続き、収益力を高め、財務基盤の強化を図る。

（百万円）	2023年3月期期末	2024年3月期期末		2023年3月期期末	2024年3月期期末
資産の部			負債の部		
流動資産	1,592	1,245	流動負債	526	473
現金及び預金	1,334	855	買掛金	102	124
売掛金	194	207	短期借入金*1	67	67
原材料	38	77	その他	356	282
未収入金	10	30	固定負債	845	852
その他	13	74	長期借入金	454	387
固定資産	531	677	その他	390	465
有形固定資産	531	663	負債合計	1,371	1,326
その他	―	13	純資産の部		
投資その他資産	267	298	株主資本	1,020	927
敷金及び保証金	267	298	その他	△2	△18
繰延税金資産			純資産合計	1,018	909
資産合計	2,390	2,235	負債純資産合計	2,390	2,235

*1．1年内返済予定の長期借入金を含む

セグメント別業績概況

店舗事業の営業利益は、第4Qの落ち込みで、前期比△78百万円の366百万円と減益。卸売事業は取り扱いを控えていた外資系ホテルや、外食チェーンなどの取引先数が拡大し増収増益となった。一方、「加工事業」については受託事業の受注が減少し、前期に比べ損失幅が拡大。

セグメント売上高

（百万円）	2023年3月期	2024年3月期	前年同期比	増減率
店舗事業	3,082	**3,199**	+166	+3.8%
卸売事業	336	**442**	+106	+31.7%
加工事業	287	**100**	△186	△64.9%
その他 ※1	65	**76**	+11	+18.3%
調整	△7	**△30**	△23	
合計	3,764	**3,790**	+26	+0.7%

*1 ：EC通販、海外卸など

セグメント営業利益

（百万円）	2023年3月期	2024年3月期	前年同期比	増減率
店舗事業	444	**366**	△78	△17.6%
卸売事業	110	**140**	+29	+26.6%
加工事業	△38	**△59**	△20	―
その他 ※1	△3	**5**	+8	―
調整	-386	**-436**	△50	―
合計	127	**16**	△110	△87.1%

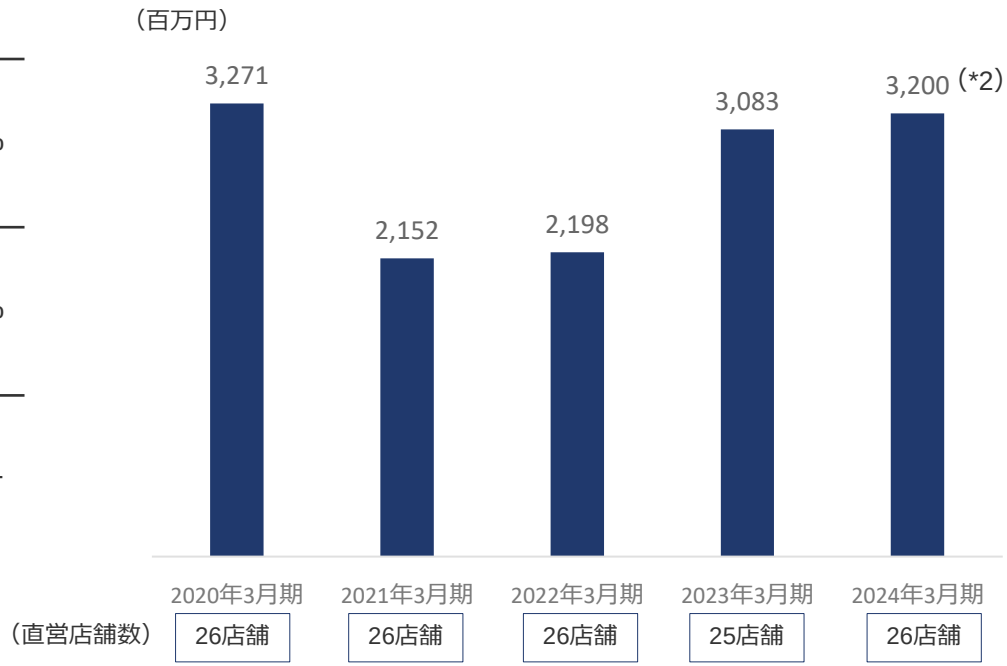
*1 ：EC通販、海外卸など

店舗事業

売上高はコロナ前の水準へ回復し、将来に向けたスクラップ＆ビルド（4店舗の出退店）や業態変更（2店舗）を実施したことで販管費の増加したことと、第4Qのノロウイルスの影響で収益が悪化したことにより前年比△78百万円の減益

（百万円）	2023年3月期	2024年3月期	前年同期比	増減率
売上高	3,082	**3,199**	+116	+3.8%
営業利益（*1）	444	**366**	△78	△17.6%
営業利益率	14.4%	**11.4%**	△3.0pt	―

店舗事業　売上高推移



*1．セグメント利益は配分していない全体費用が含まれております。

*2．FC店舗の売上は、ロイヤリティ収入のみ計上

店舗事業（出退店及び店舗数について）

新規出店6店舗（FC1店舗）、退店4店舗、業態変更2店舗
⇒2024年3月末全店舗数：27店舗（直営：26店舗、FC：1店舗）

	2023年 3月末 店舗数	増減数		2023年 12月末 店舗数	業態変更
		出店	退店		
直営店舗 合計	**25**	**5**	**4**	**26**	**2**
FC店舗		1		**1**	
全店舗店舗 合計	25	6	4	**27**	

新規出店6店舗の主な内訳
・今後のグループ主要ブランド「8TH SEA OYSTER Bar」
　（直営店舗） パルコヤ上野、ヒカリエ渋谷、ソラリア天神、（FC店舗）ココノススキノ
・新業態「8TH SEA OYSTER Market Kitchen」
　阪急うめだ本店
・新業態「8TH SEA OYSTER Bar & Grill」
　ルクア大阪
・業態変更「8TH SEA OYSTER Bar」へリニューアルオープン
　ミント神戸、阪急32番街

店舗事業　（既存店売上高 （前年比、コロナ前比））

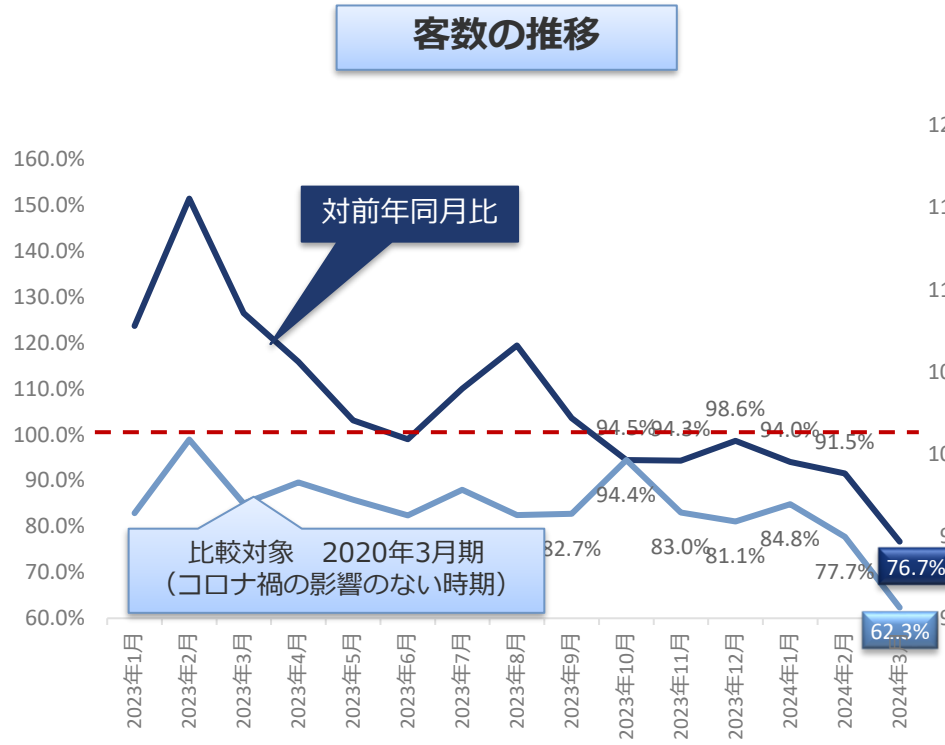
General Oyster

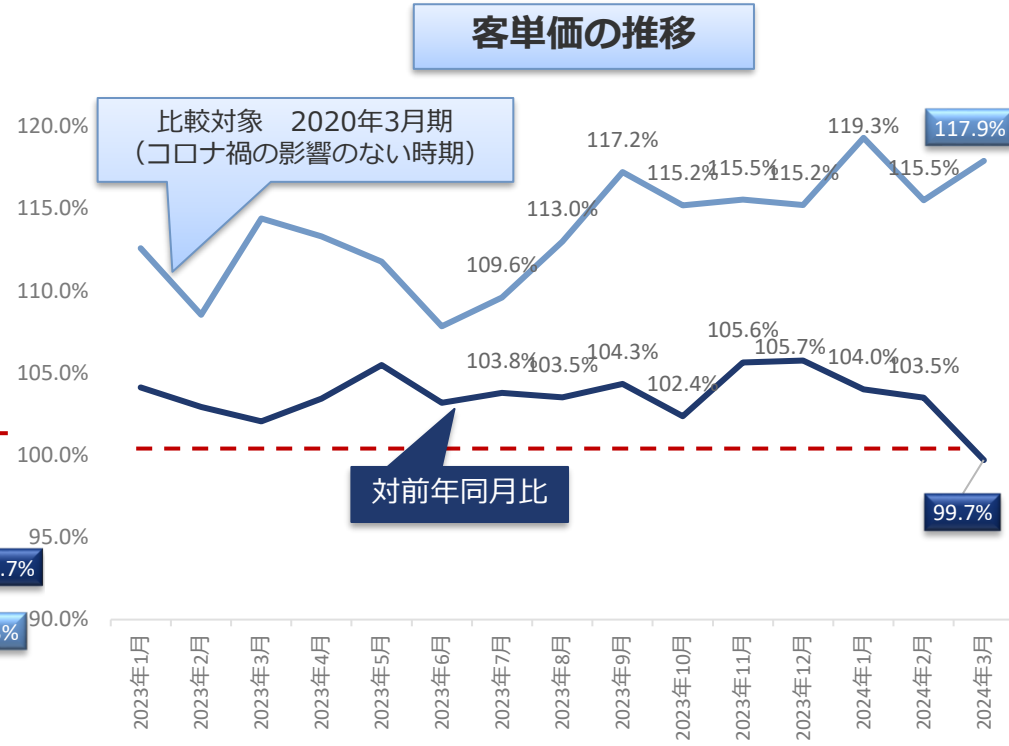
1月の能登半島地震での取水トラブルと、1月からのノロウイルスの影響で、牡蠣の供給ができない時期なども重なり
3月の売上は前年比で△23.6%の落ちこみ

店舗事業　（既存店客数・客単価（前年比、コロナ前比））

General Oyster

客数、客単価とも3Qまでは順調に推移していたが、ノロウイルスの影響で、4Qの期間、特に3月に大きく落とした。





卸売事業

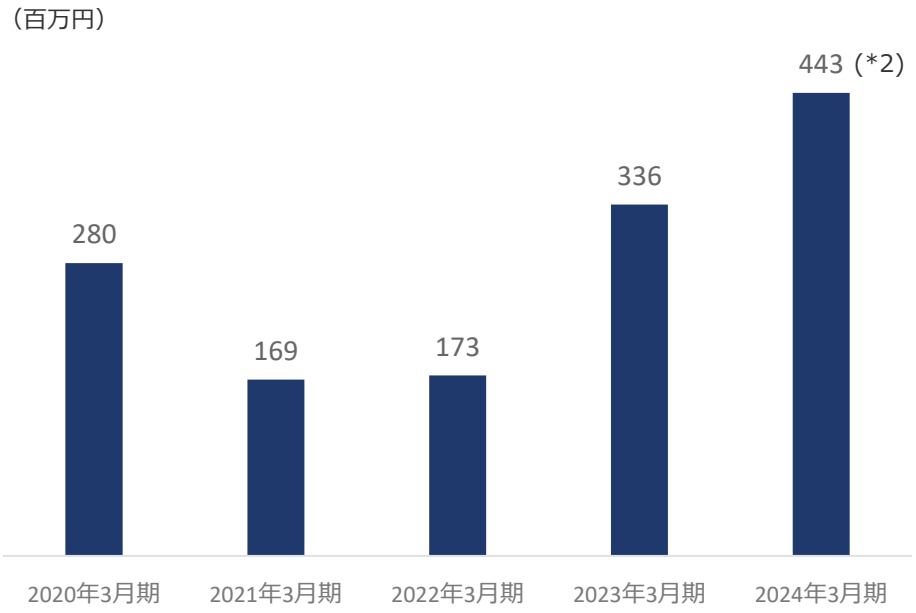
General Oyster

４Qの能登半島地震の取水トラブルやノロウイルスの影響で、牡蠣の供給が止まる影響はあったものの、今まで牡蠣の取り扱いを控えていた外資系ホテルや、外食チェーンなどの取引先数が拡大し、過去最高の売上を更新し、増収増益。

（百万円）	2023年3月期	2024年3月期	前年同期比	増減率
売上高	336	**442**	+106	+31.7%
営業利益（*1）	110	**140**	+29	+26.6%
営業利益率	33.0%	**31.7%**	△1.3pt	―

*1．セグメント利益は配分していない全体費用が含まれております。

卸売事業　売上高推移

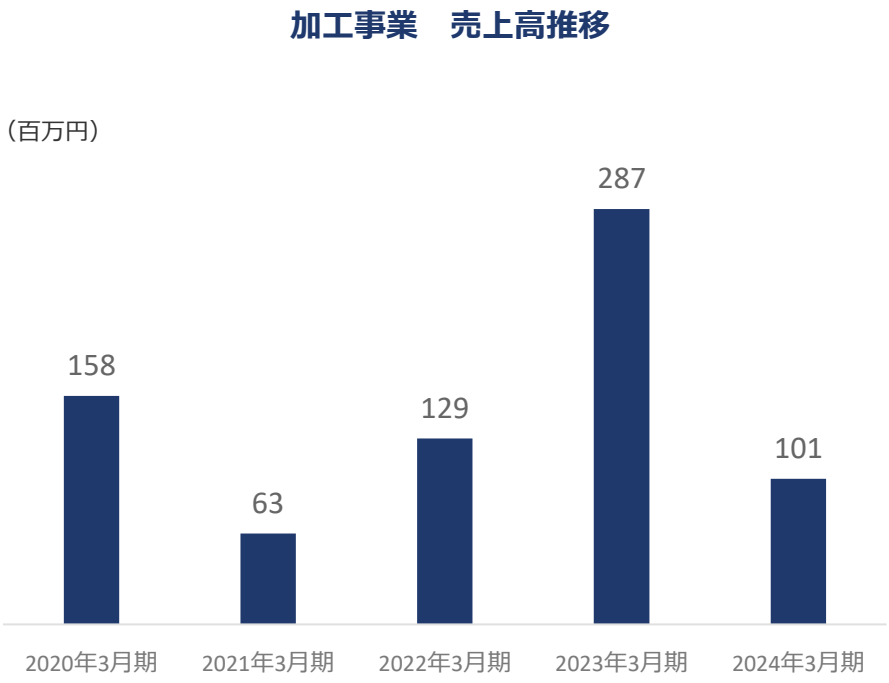


*2．FC店舗の牡蠣の卸売売上を計上

加工事業

加工事業は受託事業の主力のホタテ加工が、ホタテの価格上昇により、回転すしチェーン向けの受注が2023年1月より大幅に減少し、減収減益となった。

（百万円）	2023年3月期	2024年3月期	前年同期比	増減率
売上高	287	**100**	△186	△64.9%
営業利益	△38	**△59**	△20	―
営業利益率	―	―	―	―



*1．セグメント利益は配分していない全体費用が含まれております。

*2．グループ各社への売上は原材料費のみ計上

2. 今後の取り組みについて

2025年3月期の経営戦略の見込み

禍に臨機応変に対応しつつ、再成長へ向けた取り組み

方針	重点施策	進捗状況	活動計画
『守りの取り組み』	コストコントロールの徹底	○	引き続き、推進
再成長に向けた『攻めの取り組み』	「EC通販の強化」など販売チャネルの多角化	◎	引き続き、売上伸長を推進
	店舗事業の収益拡大	○	少ない売上でも利益を出せる筋肉質なコスト構造への転換が完了。今後も更なる定着化を進める。
	国内卸売事業の収益拡大	◎	２桁成長を維持し、更なる高利益体質に。
	海外輸出事業の収益拡大	×	資本業務提携先の阪和興業と共に、海外市場（特に、アジア、中東）の開拓を進める
	加工事業による収益貢献	×	稼働の改善を進める。
	店舗事業のITを活用しての効率化	○	引き続き、推進
	陸上養殖のアタラナイ牡蠣のローンチ	△	実証実験が終わり、量産化の検討
	再生可能エネルギー（太陽光事業）への参入	○	2025年下期から収益化

3. 2025年3月期 業績見通しについて

通期業績の見通しについて

General Oyster

オイスターの安心安全の高付加価値化の実現し既存事業の立て直しと、再生可能エネルギー事業（太陽光）など新たな成長軸をプラスさせ、持続的成長の実現と企業価値の向上を図ってまいります。

（百万円）	2024年3月期 通期実績	2025年3月期 連結業績予想	前年同期比 （%）
売上高	3,790	5,130	+1,340 (+35.4%)
営業利益	16	189	+173 (+1,054.9%)
経常利益	29	185	+156 (+532.8%)
親会社株主に 帰属する 当期純利益	△95	130	+225

General Oyster

免責事項

本資料に記載されている将来に関する内容は、当社グループが資料作成時点において入手可能な情報に基づいたものであり、潜在的なリスクや不確実性を含んでおります。
特に当社グループの事業領域は、一般的な経済状況以外にも業績に影響を与えうる要因が数多く存在しているため、実際の業績等は様々な要因により将来の見通しと異なる場合があることをご承知おきください。